

平成22年度 シラバス	学年・期間・区分	5年次・通年・B群
	対象学科・専攻	土木工学科
交通計画学 (Transportation Planning)	担当教員	前期：内田 一平 (Uchida, Ippei) 後期：本門俊男(Motokado, Toshio)(非常勤)
	教員室	前期：土木工学科棟2階 (Tel. 42-9117) 後期：土木工学科棟2階 非常勤講師控室 (Tel. 42-9125)
	E-Mail	前期：uchida@kagoshima-ct.ac.jp 後期：-
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義 / 学修単位[講義] / 2単位	
週あたりの学習時間と回数	〔授業(100分) + 自学自習(80分)〕 × 30回	
〔本科目の目標〕 現代の都市における交通ネットワークの重要性や、その果たす役割について理解を深める。交通工学に基づき交通の在り方について計画する基礎的知識を習得するとともに、道路設計の工程を把握し、行えるようにする。		
〔本科目の位置付け〕 産業基盤を支える交通ネットワーク構築の基礎技術を学習する重要な科目である。ネットワーク要素である路線の計画、調査、設計、施工、管理に至るまでの工学的知識・手法について習得し、更に、交通ネットワーク及び高規格幹線道路についても学習する。都市計画、道路工学との関連性が深い。		
〔学習上の留意点〕 教科書・配布プリントを中心に、授業を行う。要領よくまとめることが肝要である。なお、毎回の授業に対しては予習、復習を各50分程度必ず行って欲しい。		
〔授業の内容〕		
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
1.交通需要等の調査と交通計画	4	交通需要と交通量、パーソントリップ調査を理解できる OD表の作成、交通需要の将来予測を理解できる 交通量調査、交通計画の手順を説明できる
2.道路網の計画と道路事業の整備効果	4	道路網の計画、路線の選定を説明できる 道路の整備効果、事業の評価、環境影響評価を理解できる
3. 設計の基本事項と横断構成	4	計画水準と設計交通容量を説明できる 設計車両と建築限界、計画交通量を説明できる 道路区分と設計速度、車線数と横断構成を理解できる
---前期中間試験---	2	中間試験までに講義した授業項目について達成度を確認する
4. 道路線形的设计	8	平面線形、制動停止視距と追越し視距を理解できる 縦断線形、立体線形を理解できる
5. 道路交差点の設計	8	平面交差点の交通容量、平面交差点の設計を理解できる 立体交差、ランプと織込み区間の交通容量を説明できる
---前期末試験---		授業項目1.~5.について達成度を確認する
6.公共交通	4	バス・鉄道(地下鉄を含む)・船舶・航空に関する特性を理解できる
7.交通ネットワーク	4	複数交通手段の利用者選択行動とネットワーク構築に対する考えを理解できる
---後期中間試験---	2	中間試験までに講義した授業項目について達成度を確認する
8.土木技術者の使命	4	交通施設施工にかかわるこれまでの諸問題を理解し、問題解決の素養を養う
9.現代の交通諸問題 ---学年末試験---	2	現代交通問題を理解し、諸問題解決に対する素養を養う 授業項目6.~9.について達成度を確認する
試験答案の返却・解説		各試験において間違った部分を理解できる
〔教科書〕エース交通工学 樽木武・他4名 朝倉書店		
〔参考書・補助教材〕道路工学, 内田一郎・鬼塚克忠(著), 森北出版		
〔成績評価の基準〕		
〔本科(準学士課程)の学習教育目標との関連〕3-c		
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕3-3		
〔JABEEとの関連〕(d)(1)		